

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ **六萬寺周辺を訪ねる**

講師 小川 太一郎（高松市文化財保護協会副会長）

日時 平成30年9月23日（日）



共催

高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

# 目次

- 1 源平史跡 ……1
  - ◆ 源平合戦
  - ◆ 佐藤継信
  - ◆ 扇の的
- 2 栗山記念館 ……4
- 3 石の民俗資料館 ……6
- 4 六萬寺 ……8
  - ◆ 源平合戦と六萬寺
  - ◆ 伽藍消失
- 5 田井の子供神相撲 ……11
  - ◆ 行事まで
  - ◆ 行事本番

# 1 源平史跡

## ◆ 源平合戦

寿永二年（一一八三）七月、京都に攻め入った木曾義仲ひきいる大軍との戦いに敗れた平家は、都落ちして九州に渡りますが、九州も追われ、平家が求めた新たな拠点が屋島でした。屋島の檀ノ浦に内裏が完成するまでの間、安徳天皇と三種の神器を奉じるため、六萬寺に行在所を置き、再起を図りました。この時、神櫛王墓の北約二百メートルの地点に、海上からの源氏の攻撃に備え、総門を造りました。

しかし、平家一門が屋島に落ち延びてからちょうど一年後、源義経は阿波に上陸し、屋島へと向かいました。当時の屋島は島であったため、通常であれば馬に乗っての攻撃は難しい場所でしたが、干潮時であれば馬でも攻め入ることができるとの浅瀬になることを利用し、一気に攻め入りました。海路からの源氏の襲来に備えていた平家は、背後からの急襲・火攻めに源氏の大軍が襲来したとあわてふためき、総門を占領されることとなりました。



## ◆ 佐藤継信

奇襲は成功しましたが、源氏の兵はわずか百五十騎。平家軍もすぐさま反撃に転じました。平家きつての強弓使いと言われた能登守教経は、総門近くの義経めがけて弓を放ちました。この時、万事休すと思われた義経の矢面に立ち、身代わりとなったのが、忠臣の佐藤継信でした。強弓に射抜かれた継信は、そのまま息を引き取りました。

総門の南側の細道を東に数十歩行き、県道八栗・庵治線に突きあたる手前右側にある射落畠は、佐藤継信が義経の身代わりとなって射落とされた場所と伝わっています。また、佐藤継信の遺体は、洲崎寺の本殿の戸板に乗せて運ばれ、手厚く葬られたという言い伝えがあります。



射落畠

## ◆ 扇の的

日も暮れかけ両軍が引き始めたころ、海上の平家軍から一艘の船が近寄り、船上の女性が扇を射るようにとの仕草を見せます。これを見た義経は、自軍の中から扇を射ることができる武士を探させました。そこで推薦されたのが、那須与一宗高でした。あまりの大役に与一は尻込みし、一度は辞退したとも伝えられていますが、主君の命を断ることはできず、ついに的を射る役目を受けることを決意しました。そして、北風が激しく吹き、岸を打つ波も高く、扇の位置も定まらない中見事射抜き、両陣に歓声が沸きあがりました。

県道牟礼・庵治線を八栗から北進して、宮北の旧県道と合流する南側角に「いの里岩」と書かれた石標があります。この祈り岩は、与一が扇の的を射る際、この岩に向かい「南無八幡大菩薩 別しては我国の神明日光権現宇都宮那須湯泉大明神願はくはあの扇の真中射させて賜ばせ給へ」と、神明の加護を祈ったといわれています。

また、祈り岩の北西数十歩の川中に「こま立石」と描かれた石標があります。与一は、この石上に馬を止めて、扇の的を射たといわれています。



## 2 栗山記念館

柴野栗山（しばのりつざん）は、江戸時代の儒学者であり（寛政の三博士と呼ばれた）、儒学の他に国学、西洋学、考証学、考古学、書誌学、古文書学にも明るく、民衆に通じた経世済民（けいせいさいみん）の学者として知られています。経世済民とは、世の中をよく治めて人々を苦しみから救うことやそうした政治を指します。

栗山は、元文元年（一七三六）、牟礼町に生まれました。十三歳の頃から高松一の儒学者の後藤芝山（ごとうしざん）に学び、一日も休まず勉学に通ったといわれています。十八歳には、当時の最高学府といわれた昌平坂学問所に入学し、勉学に打ち込みました。十二年の歳月をかけ、儒学を大方学びつくした栗山は、日本に昔から伝わる学問（国学）を学ぶため、当時国学の中心地であった京都へ行き、大家の高橋凶南（たかはしずなん）に師事しました。三十二歳で阿波藩に仕官し、三十六歳で京都に塾を開くと多くの弟子を抱え、著名人や有名人との交流を深めました。やがて、栗山の名声は世間に広まり、優れた人格と深い学識が幕府に高く評価され、五十二歳で幕府の儒官として召しかかえられました。その後、将軍に月六回儒学を講じたほか、時の老中 松平定信の政治・経済の顧問として、ともに寛政の改革（寛政異学の禁など）に取り組みました。

★栗山記念館（高松市牟礼町牟礼三〇二八番地）

- ・開館：・午前十時から午後四時まで
- ・休館：・毎週月曜日。祝日の翌日。十二月二十八日から十二月三十一日まで。
- ・入館料：・大人二百円、高校生以下百円（二十人以上の団体は二割引）

栗山記念館は、明治三十九年（一九〇六）七月三十日に、栗山没後百年を機に行われた顕彰事業の一環として栗山生誕の地に栗山堂が落成し、平成三年十二月一日に改築されて現在に至っています。

栗山記念館には、栗山の遺品、遺墨、書簡、著書などが展示されています。また、栗山文庫には、国史関係や近世儒家関係の書籍なども展示されており、展示室内の収蔵書籍の中には徳川光圀（水戸黄門）が執筆をはじめた『大日本史』も収蔵されています。二階ホールには、明治三十九年に彫刻家瀬富新吉により造られた柴野栗山像がお祀りされています。

毎年十二月一日（忌日）には、「栗山祭」が儒式をもって行



われます。また、毎月一回、栗山の功績を学ぶ「栗山講座」（一般向け）を行ったり、町内の小学校六年生を対象とした総合学習「栗山研究」を行ったりと、顕彰活動に取り組んでいます。

### 3 石の民俗資料館

石の民俗資料館は、平成七年三月二十日に開館しました。世界的銘石「庵治石」の産地であり、世界最高レベルの石材加工技術を持つ牟礼町において、高松城築城以来約四百年にわたって石工達が築きあげた知恵と技術を後世に継承することをメインテーマとしています。

資料館内では、石と人間の関わりの歴史を紹介し、大正末期から昭和初期にかけて牟礼町で行われていた、手作業での石の切り出し、運搬、加工のそれぞれの風景を、等身大の人形と実物資料を使ったジオラマでリアルに再現しています。各工程で使用していた石工用具は花崗岩の石工技術を示す典型であり、



地域の特色を示すものとして、平成八年十二月二十日に、「牟礼・庵治の石工用具」七百九十一点が石材に関する物件では我が国初の国の重要有形民俗文化財に指定されています。また、石の民俗資料館では、石にちなんだ工作や体験・石で遊べるイベント等を開催したり、定期的にコンサートを開催したりしています。

### ★工作・体験イベントの御紹介！

#### ☆庵治石の砂利の中から天然石を探そう！ストーンハンティング

- ・受付時間：午前九時三十分から午後二時三十分まで（全6回・各回6名様まで）
- ・料金：一回三十分 三百円

#### ☆匠の技★ピカール

- 石屋さんプチ体験★昔ながらの手作業でピカピカに石を磨いてみよう
- ・受付時間：午前十時から午後三時
  - ・料金：五百円から千円

#### ☆石deペイント

- 石をえらんで好きな絵を自由に描いてみよう
- ・料金：二百円から

## 4 六萬寺

天平二年（七三〇）、日本全国に大疫病が流行し、多くの死者が出ました。聖武天皇は、行基に勅してこの地に寺を建立してお祈りさせたところ、疫病は収束し、穀物が大いに実りました。このことから、帝より『国豊寺』という寺号の勅額と新羅王から献上の阿弥陀仏を本尊にせよと賜ったのが寺の始まりであると伝えられています

その後四十年ほど経って宝亀年中（七七〇〜七八一年頃）に国内に流行した疫病を鎮めるため、先例に倣い、寺にて除疫を祈ったところ、ただちに治まりました。このとき、六万戸の檀家があり、そのお礼に一戸一軀、計六万軀の薬師の仏像を安置したため、六萬寺と呼ばれるようになり、今の琴電八栗駅から大町駅にもおよぶ壮麗な寺院となりました。



◆ 源平合戦と六萬寺

寿永二年九月（一一八三）、大宰府から屋島の檀ノ浦に入った平家は、内裏が完成するまでの間、安徳天皇と三種の神器を奉じるため、六萬寺に行在所を置きました。その際、平家の公卿等が歌を作り、寺の柱や障子に書きつけた歌が伝えられています。

嬉しくも 遠山寺に 尋ね来て 後のうき世を 洩らしつる哉

三位中将 平 重衡

いざさらば 此山寺に すみ染の 衣の色を 深くそめなむ

経誦坊 祐円

世の中は 昔語りに なれぬれど 紅葉の色は みしよなりけり

但馬守 平 経政

また、六萬寺の北東約二百メートル、大谷池の北東の隅にある杉の井の水は、安徳天皇に供えられたと伝えられています。湧き出る水は透明で甘露のように甘く、大千ばつでも

枯れることがなかったと伝わっています。現在は埋もれていますが、素掘りの井戸で、昭和二十年頃までは水が湧いており、戦時中に六萬寺に集団疎開していた大阪の児童もこの杉の井のおかげを受けたといわれています。

## ◆ 伽藍消失

天正十一年（一五八三年）四月、長宗我部元親が八栗城を攻めたとき、六萬寺に陣をとって宿営しました。寺の由来や平家の詠歌ならびに源氏の残し置いた品々を見て大変感動し『天正十一年四月 長宗我部元親 当国に陣して此寺一見畢（この寺を一見し終えた）』と書き残し、将士の者に厳重に寺を大切にしよう言い聞かせて翌日出発しました。

ところが、家来の桑名太郎左衛門という者の失火により、大多数の伽藍をはじめ、記録に至るまで焼け失せてしまいました。怒った元親は責任者の兵卒二名を打ち首にして牟礼町大町の鎧田というところで四本竹にかけてさらし首にしました。今なお同所には両人の墓が残っています。

この大火事によって寺の建物、宝物の大部分は失われてしまいましたが、鎮守勝軍地蔵のみが焼失を免れました。現在の建物は火災から約百年後の延宝七年（一六七九年）五月

に初代高松藩主松平頼重公の帰依により、鎮守の旧跡に建てられたものです。

## 5 田井の子供神相撲

- ・開催日：毎年九月二十三日（秋分の日）
- ・場 所：六萬寺
- ・高松市指定無形民俗文化財
- ・公益財団法人 日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産2017」

田井の子供神相撲は、千年以上の歴史があると言われていた伝説行事です。約八百年前の寿永二年（一一八三）に、六萬寺が安徳天皇の行在所となっており、神相撲をお見せして幼帝をお慰めしたといわれています。また、田井の子供神相撲は、勝軍地蔵に奉納されていましたが、後醍醐天皇が愛宕社を建立した関係で、十四世紀初頭頃から鎮守が勝軍地蔵から愛宕権現に名がかわりました。



## ◆ 行事まで

神事である神相撲をとり行う子どもたちの人数は、昔は六人でした。内訳は、小学校一・二年生が演ずる「小結（こむすび）」二名、三・四年生が演ずる「関脇（せきわけ）」二名、五・六年生が演ずる「大関（おおぜき）」二名です。戦前までは、この六名に選ばれるのは、田井自治会の子どもたちのうち長男だけで、大変名誉なことといわれていました。

練習は、奉納当日（九月二十三日）の一週間前から行います。神事の順番どおり、小結から大関の順で一人ずつ行う型の練習、次に、二人一組の型の練習、最後に全員で行う土俵入りの練習を行います。練習最終日の九月二十一日には、実際に禪と化粧まわしをつけて練習します。

## ◆ 行事本番

行事の順序は、小結・関脇・大関の順で一人の型を三回、次に二人一組の型を行い、最後に全員で土俵入りをするように構成されています。読経の役目は、昔から六萬寺の住職が務めています。



## ★一人で行う型の順序

- ① 正面に向かってお辞儀をする。
- ② 相撲でいう「そんきよ」の姿勢から、肩の高さに真横に手を挙げる。そのとき手のひらは上に向ける。そして勢いよく手を合わせる。
- ③ 左手は曲げて手のひらを左胸につけ、脇は締める。右手は手のひらを前に向け、下に擦らすような格好で中腰の姿勢になり「シー」と言いながら三メートルほど前に出る。
- ④ 前に出ると両手を前に伸ばし、勢いよく「ヤー」と叫ぶ。
- ⑤ 右手は肩の高さに真横に伸ばし、左手は曲げて脇を締め、手のひらを上に向け左胸につける。そして、右足を高くあげ四肢をふむ。次に右手は締めて曲げ脇を締め、左手は肩の高さに、真横に伸ばし左足を高くあげ四肢をふむ。いわゆる「竜雲型」の土俵入りの一部です。
- ⑥ 四肢を踏んだ後、再び両手を前に伸ばし「ヤー」と叫ぶ。
- ⑦ 正面に向かってお辞儀をする。
- ⑧ 正面を向いたまま後ろに下がってお辞儀をする。

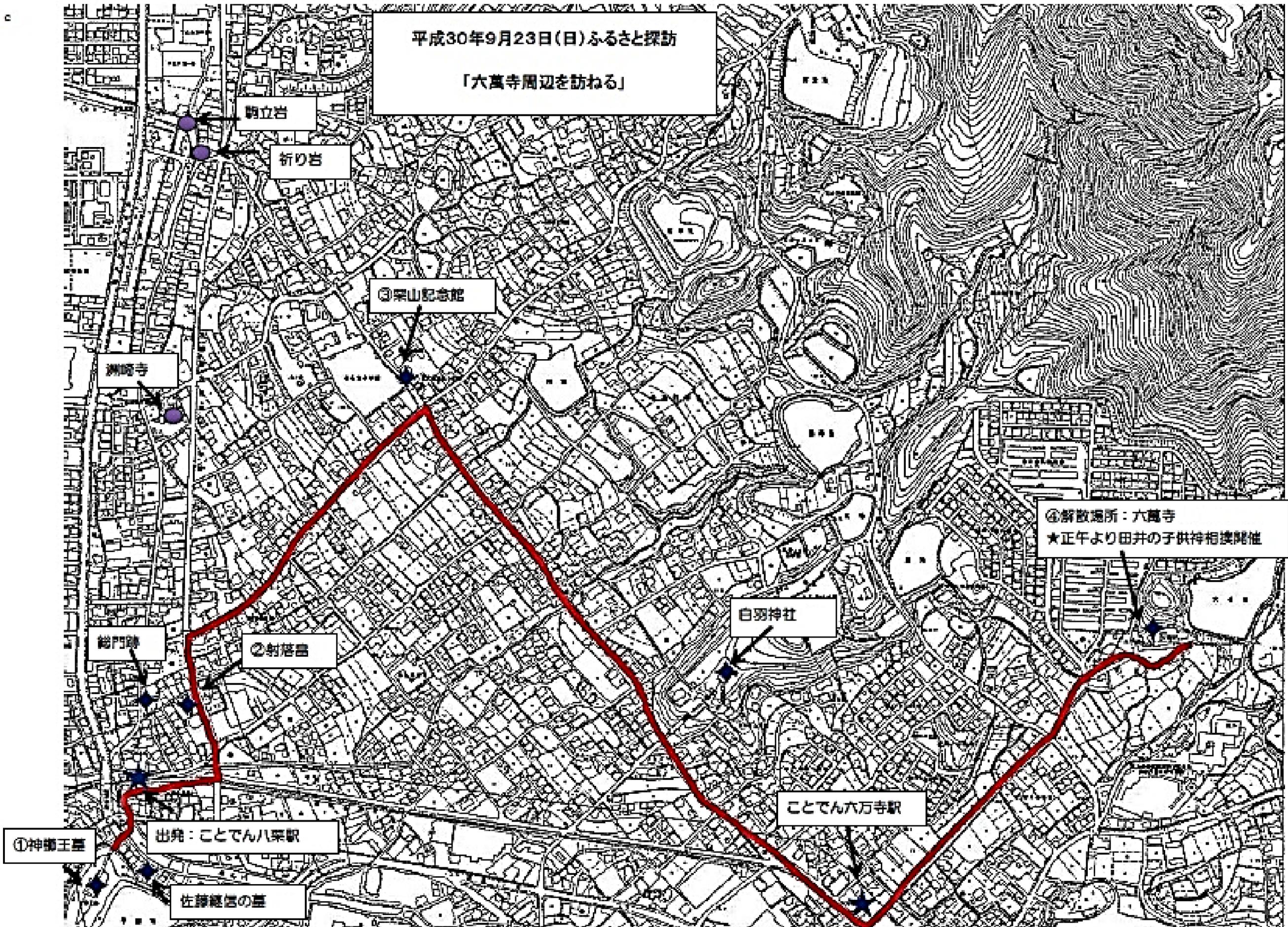


## 参考文献等

- ・『牟礼町誌』平成十七年
- ・『夢ひろがれ、むれ 平成十年・牟礼町勢要覧』牟礼町、平成十年
- ・『柴野栗山二百年祭記念誌』財団法人栗山顕彰会、平成十九年
- ・「田井の子供神相撲について」田井子供神相撲保存会、平成三十年
- ・六萬寺ホームページ <http://rokumanji.com/index.html>
- ・うどん県旅ネット（源平合戦の地を巡る） <https://www.my-kagawajp/feature/yashima/genpei>
- ・屋島ナビ（源平合戦古戦場） <http://www.yashima-navi.jp/history/genpei.php>

**M  
E  
M  
O**

平成30年9月23日(日)ふるさと探訪  
 「六萬寺周辺を訪ねる」



鶴立岩

折り岩

◎栗山記念館

洲崎寺

④解散場所：六萬寺  
 ★正午より田井の子供神相撲開催

白羽神社

総門跡

◎射落館

ことでん六万寺駅

①神龜王墓

出発：ことでん八栗駅

佐藤経信の墓

9月23日(日)

◎行き ことでん

高松築港(8:43 発)長尾線→瓦町(9:06 発)志度線→八栗(9:25 着)

◎帰り ことでん

六万寺(12:33 発)→瓦町(13:00 発)長尾線→高松築港(13:05 着)

## ★次回のふるさと探訪は…

テ ー マ

「明治150年企画①：松平頼該（左近さん）を訪ねる」

と き 平成30年10月14日(日) 9:30～正午頃

集合場所 石清尾八幡宮 正面の門付近

講 師 山本 英之（市文化財専門員）

参加費 無料

☆広報「たかまつ」10月1日号に開催案内を掲載します。

☆ふるさと探訪用駐車場はありません。公共交通機関を御利用ください。

☆小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうか御不明な場合、午前7時30分～9時30分に文化財課（Tel 087-839-2660）でお知らせします。

（電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。）



# 「ふるさと探訪」に参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、  
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。

